

#### 第4 農業の近代化のための施設の整備に関する事項

農業の近代化のための施設の整備について、南部、中北部各農業地帯の重点作目別の方向性を示すとともに、広域的に整備が必要な施設についての構想を示す。

なお、施設の整備、更新に当たっては、省エネルギー設備等の導入を検討するなど、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出削減にも配慮する。

##### 1. 重点作目別の構想

###### (1) 水稲

消費者が求める付加価値の高い米、業務用米など、用途に応じた需要量を把握し、生産者への情報提供を通じて、主食用米や飼料用米等の適正な規模の作付けを推進する。また、法人化や担い手への農地利用の集積・集約化による規模拡大、省力・低コスト技術やICT等のスマート農業技術の導入、経営管理能力の向上等により、収益性の高い経営感覚に優れた担い手の育成を進める。

このため、規模拡大や効率的利用が可能な高性能機械や省力・低コスト栽培用機械の導入を進めるとともに、大規模乾燥調製施設や共同育苗施設等の基幹施設については、運営の見直しや再編による複数施設での機能分担など、効率的な施設運営体制の整備を図る。

###### (2) 麦類

水稲や大豆との二毛作として大規模経営体や集落営農組織へ積極的に推進し、土地利用率の向上による所得の確保を図るとともに、施肥技術の改善や基本技術の励行等により、実需者ニーズに即した高品質麦の安定生産を進める。また、担い手への農地利用の集積・集約化や作業受託等による規模拡大や農業機械・施設の共同利用、高性能機械やスマート農業技術の導入を進め、生産の効率化とコスト低減を図る。大規模乾燥調製施設については、運営の見直しや再編による複数施設での機能分担など、効率的な施設運営体制の整備を図るとともに、施設がない地域においては広域的な出荷体制を整備する。

###### (3) 大豆

水田の利用率向上につながる重要な作物であることから、集落営農組織等による作付けの団地化を推進するとともに、省力機械化体系の技術開発や施設整備、スマート農業技術の導入、排水対策、土づくりの徹底、基本技術の励行により、収量・品質の向上を図る。また、出荷調製施設の整備等による産地供給力の強化を図る。

###### (4) 野菜

県産野菜の主要品目である冬春なすや夏秋トマト、いちご等は、高品質な野菜として市場から評価されており、ブランドが確立されている。また、キャベツやたまねぎ等の加工・業務用野菜の需要増加にともない、法人等での生産が拡大している。

このため、県産野菜のブランド力の強化や生産拡大を加速させるため、ハウス等の生産施設の整備、生産効率の向上を図るスマート農業技術等の推進により、産地の体質強化と供給力強化を図り、儲かる野菜農業を推進する。

###### (5) 果樹

本県の気象条件と、高度な技術により生み出される果実は、最高級品として扱われており、国内外から生産量の拡大や出荷期間の延長が求められている。

そうした市場ニーズに応えるため、面積拡大と生産性の向上を進め、一層の供給力強化を図り、儲かる農業を推進するとともに、関西圏・首都圏・海外へのPR戦略を積極的に展開し、販路を拡大していくことで、将来につながる攻めの果物振興を推進する。

###### (6) 花き

花の生産と消費の現状は、国内の花き産業が縮小傾向にあることから、新たな需要の創造などにより、安定的な生産・販売の展開が求められている。

このため、多様化する消費者ニーズに対応した高品質花きの安定生産を図るほか、オリジナル品種を核とした優良種苗供給体制の整備を進める。さらに、施設化を進めるととも

に省力化技術を導入し、一層高品質な花きを安定供給できる産地体制を整備し、活力ある花き産業を展開する。

#### (7) 畜産

##### ア 乳用牛

良質な牛乳・乳製品を適正な価格で安定的に供給するため、岡山県酪農及び肉用牛生産近代化計画を基に、既耕地の効率的な利用や耕畜連携による飼料作物の生産を推進し、飼料自給率の高い経営を目指すとともに、効率的で安定的な酪農経営の維持発展を図るため、環境に配慮しながら近代化施設を整備する。

##### イ 肉用牛

品質に優れた牛肉を適正な価格で安定的に供給するため、岡山県酪農及び肉用牛生産近代化計画を基に、既耕地や採草放牧地の効率的な利用等により飼料生産基盤の充実を図るとともに、環境に配慮しながら低コスト牛舎等の施設整備を推進する。

##### ウ 豚

生産性の高い企業的経営を育成するため、衛生面や環境面に配慮しながら、優良種豚の導入による肉質の向上と斉一化をはじめ、省力的な飼養管理による低コスト生産等を推進する。

##### エ 採卵鶏

需要に見合う生産を基本として効率的・衛生的な飼養管理により生産性と品質の向上に努める。

##### オ 肉用鶏

安全で高品質な鶏肉の供給を基本として効率的・衛生的な飼養管理により生産性と品質の向上に努める。

## 2. 農業地帯別の構想

### (1) 南部農業地帯

#### ア 水稻

需要に応じた売れる米づくりと、新規需要米等の作付けによる収益力強化を基本とし、業務用途が多い「アケボノ」等は、規模拡大によるコスト低減と多収穫技術など収量向上を追求し、コスト競争力を高める。また、担い手への農地利用の集積・集約化による規模拡大や法人化、スマート農業技術等を活用した省力・低コスト技術の導入、経営管理能力の向上等により、収益性の高い経営感覚に優れた担い手の育成を進める。

このため、規模拡大や効率的利用が可能な高性能機械や省力・低コスト栽培用機械の導入を進めるとともに、大規模乾燥調製施設や共同育苗施設等の基幹施設については、運営の見直しや再編による複数施設での機能分担など、効率的な施設運営体制の整備を図る。

#### イ 麦類

効率的な土地利用型農業と需要に応じた生産拡大を図るため、需要に対応した麦種生産及び収量の安定化と品質向上を推進する。また、大規模乾燥調製施設については、運営の見直しや再編による複数施設での機能分担など、効率的な施設運営体制の整備を図る。

#### ウ 大豆

集落営農組織等による作付けの団地化を推進するとともに、低コスト化、収量・品質の向上のため、基本技術の励行と省力化技術に係る機械・施設の整備を図る。

#### エ 野菜

瀬戸内の温暖な気候を生かし、なす・いちご等の施設野菜やはくさい・キャベツ等の露地野菜の生産が盛んに行われており、施設野菜ではハウス内の環境を作物の生育状況に合わせて調節する環境制御技術の導入を推進し、露地野菜では作業の機械化や排水対

策等を実施し、高品質な野菜を安定的に供給する産地を育成する。

オ 果樹

(ア) もも

ももでは、岡山オリジナル品種を中心に、高品質な「岡山白桃」として長期間安定出荷できる産地育成と、気象変動に対応した防風ネットの設置等施設整備を含めた生産安定対策等について推進する。また、新たな担い手確保・育成を図り、経営規模拡大等による供給力強化を進める。

(イ) ぶどう

ぶどうでは、高まる市場のニーズに応えるべく、さらなる高品質安定生産を推進し、供給力強化を図る。特に南部では、温暖な気象条件を生かした施設栽培の導入を推進し、早期出荷による農業所得の向上を図る。

カ 花き

温暖な瀬戸内の自然条件を生かし、冬から春の作型を中心とした、スイートピーなどの消費者ニーズに対応した品目の産地拡大を図る。また、気象変動に対応するため施設と組み合わせた環境制御による安定供給技術や省エネルギー対策技術を導入し、一層高品質な花きの安定供給を図る。

キ 畜産

安全で高品質な畜産物を適正な価格で安定的に供給するため、土地条件の制約が比較的少ない地域では大規模な企業的経営を展開することとし、環境に配慮しながら飼料生産基盤の確保や耕畜連携の推進による資源循環型の畜産経営を促進する。

(2) 中北部農業地帯

ア 水稻

主力品種である「あきたこまち」「コシヒカリ」「きぬむすめ」は、おいしさやこだわりを追求した生産とともに新規需要米や高収益作物の作付けによる収益力強化を図る。また、担い手への農地利用の集積・集約化による規模拡大や法人化、スマート農業技術等を活用した省力・低コスト技術の導入、経営管理能力の向上等により、収益性の高い経営感覚に優れた担い手の育成を進める。担い手確保が困難な地域等においては集落営農の組織化・法人化を推進するとともに、経営の多角化を進める。

このため、規模拡大に応じた共同利用が可能な高性能機械や省力・低コスト栽培用機械の導入を進めるとともに、大規模乾燥調製施設や共同育苗施設等の基幹施設については、運営の見直しや再編による複数施設での機能分担など、効率的な施設運営体制の整備を図る。

イ 麦類

近年生産が拡大し、加工品開発などの地産地消の取組が進んでおり、需要に応じた生産を進める。また、乾燥調製施設の広域的な運営体制の整備を図る。

ウ 大豆

実需者ニーズに対応した安定生産を進め、優良系統（黒大豆）による品質の安定化、省力機械化体系の技術確立と普及、出荷調製施設の整備等を図る。

エ 野菜

夏季冷涼な気候を生かし、トマト、きゅうり、アスパラガス等の生産が盛んに行われており、ハウス等の生産施設や省力化機械等の導入を推進し、高品質な野菜を安定的に供給する産地を育成する。

オ 果樹

(ア) もも

ももでは、岡山オリジナル品種を中心に、高品質な「岡山白桃」として長期間安定出荷できる産地育成と、気象変動に対応した防風ネットの設置等施設整備を含めた生産安定対策等について推進する。また、新たな担い手確保・育成を図り、経営規模拡大

大等による供給力強化を進める。

(イ)ぶどう

ぶどうでは、高まる市場のニーズに応えるべく、さらなる高品質安定生産を推進し、供給力強化を図る。特に中北部では、夏季冷涼な気象条件を活かした簡易被覆栽培の一層の拡大を推進し、併せて省力、高品質生産のための機械導入を進める。

カ 花き

夏季冷涼な準高冷地や中山間地域の気象条件に合った、りんどうなどの特色ある花きを導入し、産地規模拡大に取り組むとともに、集出荷の効率化や省力機器・技術の導入により、高品質な花きの安定供給を図る。

キ そば

地場消費や加工品開発を促進し、流通対策の強化による販路開拓を推進する。

ク 畜産

安全で高品質な畜産物を適正な価格で安定的に供給するため、中山間地域など土地条件の制約が大きい地域では、家族経営を中心として地域特性に応じた他作物との複合経営を展開し、付加価値の高い畜産経営を実現するなど効率的で安定的な畜産経営の維持発展を図る。

### 3. 広域整備の構想

(1) 米麦大規模乾燥調製貯蔵施設の整備

米麦の乾燥調製コストの低減、流通の合理化、ロットの拡大、品質の均質化等を図るため、農協の広域化に伴う既存施設の再編、能力増強や広域的連携による効率的な利用を推進する。

(2) 野菜広域流通拠点施設

出荷ロットの拡大と流通合理化を図るため、広域連携出荷に向けた選果及び出荷体制の整備を推進する。

(3) 青果物情報ネットワークの強化

産地・出荷団体・市場間を連結した市況情報、販売実績、全国情報、営農情報等を提供する青果物情報提供システムを活用し、青果物の有利販売に結び付ける。

(4) 畜産物共同処理施設

流通コストの低減と合理的な価格形成に資するため、既存の生乳処理加工施設及び産地食肉加工施設の適正な管理と運営を推進する。また、広域堆肥処理センターの機能強化を図り、良質堆肥の利活用を推進する。